

平成31年度 入学式（全日制） 校長式辞

「初春の令月にして、氤淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす」新元号「令和」の出典、日本最古の歌集「万葉集」の歌であります。

日本中が「令和」という新たな時代に期待を膨らませている中、平成31年度 愛知県立古知野高等学校、全日制課程の入学式を挙げていきますことは、誠に喜ばしいことでもあります。

本日の入学式には、御多用の中、PTA会長 土屋恵美子 様はじめ役員の皆様、そして、多くの保護者の皆様に御出席をいただきました。心から御礼を申し上げます。

只今、入学を許可した240名の皆さん、入学おめでとう。ようこそ、古知野高校へ。教職員一同、皆さんの入学を心から歓迎します。

さて、本校は、昭和27年に古知野高校として独立し、今年、68年目を迎える伝統校です。校訓として、勉学に励み、知性と技術を磨く「向学」、礼節を重んじ、心ゆたかな生活を築く「礼節」、体を鍛え、たくましく生きる力を培う「健康」という三つの言葉を掲げています。古知野高校を卒業する時には、一人一人が抱えている輝かしい望みを、叶えることができるように、未来へとつなぐ架け橋となれるように、三年間、愛情をもって温かく見守り、また、時には厳しく指導いたします。

新入生の皆さんには、義務教育での学びを基盤とし、高校生としてのより高い学びを、前向きな気持ちで極めてほしいと願っています。

そこで、本校の生徒として、今後、心がけてほしいことを二つ話します。

一つ目は、「とりあえず、挑戦する」ということです。

「やりたいと思えば挑戦すればいい」「苦しんだ体験は未来の自分の支えになる」プロ野球の現役を引退したイチローが引退会見で話した言葉です。誰も失敗はしたくない。失敗は怖い。だからといって、失敗を恐れて行動しなければ前には進まない。それならば、とりあえず、やってみよう。「やりたいと思えば挑戦すればいい。そのときに、どんな結果が出ようとも後悔はない。つらいこと、しんどいことから逃げたいと思うのは当然のことだけど、でも、エネルギーのある元気なときに、それに立ち向かっていく。そのことは、人として重要なことだ」と語っています。

本校では、学科ごとに特色ある校外実習を行い、活かせる技術を身に付けることを大切にして

います。また、各種検定・国家試験の合格、資格取得を目指します。臆することなく、果敢に挑戦することを期待します。

二つ目は、「熱中できるものを見つける」ということです。

人は誰でも「やって楽しいこと」には、エネルギーを注ぐことができます。時間を惜しまず、自らが定めた目標に向かって一生懸命に努力します。そして、その目標を達成したときには、何とも言えない充実感、満足感を味わうことができ、人生が楽しくなります。

本校は、部活動が活発です。いくつかの運動部は、県大会に出場しています。文化部も、コンクールや発表会に出場、ボランティア活動や作品制作に積極的に取り組んでいます。スポーツには、人々に「感動、勇気、元気」を与える力があり、文化的活動には、人々に感動や安らぎを与える力があります。

熱中できる部活動、夢中になれることを見つけ、充実した高校生活を送ってほしいと思っています。

ただ、やりたいことをするためには、その時間を生み出すために生活を正し、やるべきことをしっかりこなし、家族や周囲の人の理解を得て、応援してもらえる人になる必要があります。このことも、忘れないでください。

最後になりましたが、保護者の皆様へ、一言お祝いを申しあげます。

手塩にかけて育ててこられたお子様が、本日、晴れの高校入学の時を迎えられました。感慨もひとしおのことと存じ、心からお祝い申し上げます。今日から大切なお子様を、日中の大事な時間、本校で預からせていただきます。保護者の皆様を前に、大きな責任を感じております。教職員一同、情熱と愛情をもち、全力で教育活動に取り組み、保護者の皆様方の御期待に応えていく所存であります。御家庭におかれましても、本校の教育方針を御理解いただき、お子様の良い面は褒め、悪い面は悪いと毅然と指導していただきますようお願いいたします。これから三年間、喜びも、心配も、ともにさせていただきます。困った時、迷った時には、どうぞ相談相手になってください。

学校には、厳しさの中にも喜びや楽しみ、感動がいっぱいあります。本校に入学した新入生の皆さんの三年間が、どうか充実した日々でありますように、より多くの喜び、楽しみ、感動を味わえることを心から祈って、式辞といたします。

平成31年4月8日

愛知県立古知野高等学校長 川合 貴也